

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2022.12.No304

12月号

目次

全道大会を終えて想う……………	1
特集 第44回 全道大会 「空知大会」……………	2
女性建築士の集い報告……………	6
Coffee Break……………	7
information……………	8

URL <https://www.h-ab.com/>

全道大会を終えて想う

第44回一般社団法人北海道建築士会全道大会実行委員長
空知支部 支部長 芳賀 智一



コロナ禍の最中、(一社)北海道建築士会創立70周年 第44回全道大会(空知大会)を滞りなく終えましたことに感謝と御礼を心より申し上げます。月日が経つのは早いもので、大会準備から始まり、大会を挙げるまでの数ヶ月は実行委員、事務局はじめ多くの方々にご尽力頂き只々感謝の言葉しか思い浮かびません。併せまして、ご来賓の皆様、登録して頂きましたメンバーの皆様にはピークアウトが見えない情勢の中で華を添えて頂きましたことに重ねて御礼申し上げます。

さて、未曾有の新型コロナウイルス感染症の蔓延により、安心安全な大会に参加をして頂くために、新たな大会形式の模索、確立をさせていかなければなりません。この思いは高野会長はじめ、本部役員、主管地も同じではなかったでしょうか。本部との定例会議の中では闊達な意見が交わされ、ネガティブを一つ一つ潰していき本大会へと導きました。

各プログラムの事業結果につきましては分科会担当委員会、実行委員会より報告ありますので私からは割愛をさせていただきますが、大会テーマである開拓期から現代へ 大地の恵み「そらち・デ・ビュー」、サブテーマの～空知(ソーラップチ)のまちから未来へ発信～に寄り添った青年サミット、分科会だったのではと感じます。

記念式典におかれましては公務ご多用のところご臨席賜りました北海道知事 鈴木直道様代理、北海道建設部 建築企画監 細谷俊人様、岩見沢市長 松野 哲様、公益社団法人 日本建築士会連合会会長 近角 眞一様はじめとする多くのご来賓の皆様には心より厚く御礼申し上げます。また、長年に渡る建築士会活動において表

彰されました先輩諸兄の皆様には心より労いの言葉をお送りしたく存じます。

基調講演では鈴木貴之氏をお迎えし、個人的には鈴木氏のお話が腑に落ちるところがありました。「何にもない原野だから様々なものが生み出せる可能性がある」「70%の成果でいい」「失敗できる=挑戦できる」「多角的、発想の転換が大事」「1つの起点に3つの結末を考える」「違った考えを受け止める」「色を変えてみる」などブルーオーシャンの先見と完了主義の思いを受け止めることができました。

懇親会では189名が一堂に介し意見を交わし、研鑽と交流を深めることができたと感じました。加えて、網走支部さんの想いを伝える場面を設けることができ、次年度開催地の北空知支部さんへバトンを渡すことができ安堵しました。

結びに、コロナ禍に限らず時代の変化は必ず訪れます。「アーリースモールサクセス」という言葉にある、早い時期に小さくてもいいから目に見える成功事例を積み重ねていくことが困難を突破していく条件となるそうです。未だ予断を許さない情勢ですが柔軟に寄り添いながら明るい変化を信じて皆様の建築士会活動に更なる発展をご期待申し上げ主管地を代表して感謝とお礼とさせていただきます。ありがとうございました。



大会式典 高野大会長挨拶



大会式典 芳賀実行委員長挨拶



青年サミット①



A分科会①



応急危険度判定・机上訓練体験コーナー①



応急危険度判定・机上訓練体験コーナー②



B分科会①



C分科会①



青年サミット②



A分科会②



青年サミット会場
旧住友赤平炭鉱立杭櫓



大会受付・懇親会会場
北海道グリーンランドホテルサンプラザ



B分科会②



C分科会②



青年サミット③



A分科会③



A分科会会場
雨煙別小学校
コカ・コーラ環境ハウス



受付①



B分科会③



C分科会③



青年サミット④



A分科会④



B分科会会場
三笠市民会館



受付②



B分科会④



C分科会④



大会式典①



大会式典②



大会式典③



基調講演



懇親会



A分科会

廃校をめぐる地域と未来のつながり

女性委員会

金子 ゆかり（釧路支部）



新型コロナウイルスの流行で3年ぶりの開催。待ちに待ったA分科会への参加となりました。実はコロナ流行直前にヘリテージマネージャーとなった事もあり、今回の「廃校をめぐる地域と未来のつながり」は大変興味がありました。

会場でもある雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウスの山本信二副理事長と設計を担当した象設計集団の関育代氏の説明により、活用の経緯や設計時の工夫にうなずき、アートを通しての地域との繋がりを構築する事例を道教育大岩見沢校の柴田尚教授から、大学という枠組みにとどまらない芸術活動にチャレンジしている発表に驚きました。事例発表で、いちばん面白そうだと感じたのは、(株)CHUEMUSIC 荒井純一代表の現在進めている「ツキガタアートビレッジ」のプロジェクト。古建築を活用して交流の場をつくる計画はワクワクし、建築士会の私達も仕掛けられないかな？と、妄想を膨らませてしまいました。

会場の建物も見応え十分！メロンまで付いたランチも頂き久々に充実した時を過ごせました。



B分科会

『食と建築とまちづくり～食のまち三笠で学ぶ地域のミライ』

まちづくり委員会

清水 浩史（札幌支部）



B分科会では、三笠市の食のまちづくりを学ぶとともに、食を彩る空間づくりへの建築の関わりについて学びました。

まず、三笠市民会館を会場として、パネルディスカッションを行いました。

市役所で食のまちづくりを担当する石井様、建築を担当する田中様から、三笠高校生レストランの事例などを通して、食のまちづくりと建築的なサポートなどのお話をいただき、次に、栗山町のレストランオーナーの早乙女様、建物施工の武部建設の武部社長から、食を通して地域の魅力を表現するオーナーの思いと、その思いを受けて魅力的な空間を作ろうとする建築側の思いなど、お話しいただきました。

そして、食のまちづくりをもっと進めるために、建築士として何ができるのか、求められるのかなど、議論を深めていきました。

その後、ディスカッションの題材ともなりました「三笠高校生レストラン」を見学しました。

このB分科会を通して、食のまちづくりにおける建築の力というものを強く感じました。また、官民の枠、市町村の枠を超えた地域の連携が、まちづくりを進める上で重要であることを改めて感じました。

なお、参加人数は60名でした。ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。

C分科会

SDGsから見える建築士会活動

青年委員会

宮沢 勝（北空知支部）



これまでコロナ禍において2年に渡り延期・中止となっていた全道大会が、令和元年以来3年ぶりの開催となりました。青年委員会は美唄市の「安田侃（やすだかん）彫刻美術館 アルテピアッツァ美唄」においてC分科会を開催しました。

C分科会は講演とワークショップを行い、講演のテーマは『SDGsから見える建築士会活動』としました。講師にはJICA北海道の横山敬子（よこやまけいこ）様をお招きし、国際協力での経験や、現地と空知や北海道との対比による問題点等についてお話しいただき、全道青年委員会連絡会議で学んできたSDGsについて、さらに理解を深めることが出来ました。

ワークショップでは「未来につなぐ北海道建築士会のイニシアティブ」と題し、建築士会活動が「持続可能なふるさと北海道の未来を築くため、何ができ、どのように目標達成に貢献できるか」を参加者の皆様と共に考え意見を共有することが出来ました。

また、たまたま会場においてになった安田侃先生に短い時間ではありましたが、ご挨拶をいただき貴重なお話を聞くことが出来ました。

今回は空知支部美唄分会のご協力をいただき円滑に開催することが出来たことを御礼申し上げます。

ミニ机上訓練

体験コーナーミニ机上訓練

被災地応急支援委員会

瀬尾 正宣（後志支部）



被災地応急支援委員会では空き時間を利用したPR活動として、委員が作成した模型を使用したミニ机上訓練と判定ツールの展示を2会場を移動しながら行いました。午後の本会場では満席状態で、用意していたペーパーが時間前に底をつくという想定外もありましたが、沢山の方に体験して頂き、関心を持って頂いたと感じています。コロナ禍も落ち着き、対面の判定士認定講習や机上訓練も再開しております。判定士の方は、被災地応急支援ネットワークへ登録し、建築士としての社会貢献活動にご協力いただける様お願いします。最後に空知支部、芳賀委員長、運営スタッフの皆様、ご協力ありがとうございました。また大会の準備運営、大変お疲れ様でした。



基調講演

情報委員会

今村 敏彦 (札幌支部)



基調講演「空を知る生活」

講師：株式会社クリエイティブオフィスキュー 鈴井貴之氏

今や北海道で知らない人はいない「鈴井貴之」さん。赤平市出身の鈴井さんは「そらち応援大使」に加え「北海道コンサドーレ札幌オフィシャルサポーター」にも就任され、多方面でご活躍されています。基調講演では、これまでの経験や私生活など、多彩なエピソードをお話していただきました。

講演テーマ「空を知る生活」の通り、赤平へ居を移した鈴井さんの破天荒な暮らしぶりや「そらち応援大使」として地域貢献など地元への愛を感じるエピソードをユーモアたっぷりにお聞かせいただきました。

講演の言葉の中で「人から無理だ、無駄だと言われることこそ、新しいものを生み出す可能性がある。だから多角的な視点と発想が大切になるんです」というメッセージが記憶に残るものとなりました。

今後鈴井さんが挑戦するプロジェクトとして、コンクリート構造物を地下に建造する企画が検討されています。そのため建築士会にも高い関心と期待を示されており、「もっと聞きたい」と思わせるようなお話ばかりでした。鈴井さんの更なるご活躍に期待が膨らむばかりです。



青年サミット

青年委員会

渡邊 園絵 (空知支部)



令和4年9月2日(金)、青年サミットin滝川『未来につなぐ』を開催いたしました。

空知の魅力をより知ってもらえるよう、サミット0次会として世界遺産でもある赤平炭鉱遺産を見学する研修会を行い、その後松尾ジンギスカンにて4年ぶりとなる青年サミットを行いました。

来賓の方々にも参加して頂き、80名以上の集まりになりました。久しぶりの青年サミットを楽しんでいただけるよう、滝川分会青年部を中心に奈井江分会と協力し、感染対策も考えながらおもてなしの準備を進めました。初めに滝川産のワインで乾杯し、滝川の名物のジンギスカンを食べ、砂川プラスチックによる管楽器の生演奏の披露で余興を盛り上げて頂きました。そして各支部の活動報告、お土産紹介、次回開催のPR等、また来年開催出来ることを願いながらおひらきとなりました。

コロナ禍後、初の青年サミットであり、2018年以來の開催でもあるので、いろいろと手探りの状態での準備となりましたが、空知支部の中で青年部として活動を続けてきた仲間とのつながりを再確認できた大会になったのではないかと思います。

ご協力頂いた方々、ご参加頂いた方々、本当にありがとうございました。

実行委員会

第44回全道大会(空知大会)を終えて

実行委員会 総務広報部会 部会長

中園 典章 (空知支部)



ここ数年は、コロナ禍の影響により様々な経済活動の自粛が強いられ、我々の活動にも大きなダメージを及ぼしておりますが、最近では、「ウイズコロナ」など、経済再生に向けた動きも出始めており、徐々にではありますが、あらゆる催しなどが行われるようになって参りました。

さて、今回開催いたしました全道大会を振り返って見ますと、実行委員会の立ち上がった当初は正直申しまして、開催が可能か否かの葛藤の中、開催準備を進めて参りました。

結果、特に大きな問題もなく、開催が叶ったことは、実行委員のメンバーといたしましても非常に喜ばしいことと思っております。

関係者各位には、開催に際し、多大なご尽力を賜り心より厚く感謝申し上げます。

また、各分科会の活動については、女性委員会は栗山町、まちづくり委員会は三笠市、青年委員会は美唄市にて各々有意義な活動となり、北海道建築士会外にて報告されております。

一般社団法人北海道建築士会創立70周年記念第44回全道大会(空知大会)は、大会テーマを『開拓期から現代へ 大地の恵み「そらち・デ・ビュー」』とし、去る9月3日に岩見沢市にて、ご来賓ほか全道各支部会員の多数のご参加のもと北海道建築士会空知支部 細谷武伴副支部長の開会宣言に始まり、

続いて功績顕著者並びに永年表彰が行われ、多数の方々が表彰を受賞されました。

その後、大会決意文を北海道建築士会 空知支部 猪爪 豊副支部長より発表され、続いて、令和5年度開催主管となる北海道建築士会 北空知支部 田中昌幸支部長より開催に際しての、地元アピール並びに参加要請が行われ、今大会は、滞りなく盛会裏の内、無事終了いたしました。

大会終了後は、芸能界や放送作家など様々な分野でご活躍されているそらち応援大使でもあります「鈴井貴之」氏により、「空を知る生活」と題しての基調講演が開催されました。

鈴井氏の講演内容は、大会テーマの一部でもある「開拓期から現代へ」の言葉に通じる実業家としての北海道初の試みであるタレントマネジメント会社設立に向けての経験談などのお話をいただき、鈴井氏と同世代でもある私には、心に響き渡り、とても印象に残る講演となりました。

今日も全世界を大きく揺るがし続ける、コロナ禍、あるいはロシアによるウクライナ侵攻などの影響により、過去に例の無い資材不足や高騰、また為替変動など業界にとっては、大変不利な状況となっておりますが、この荒波を乗り越えて行くには、我々建築士会といたしましても会員総力を挙げて、経済復活に向け、更なる力を振り絞り、社会貢献のため奮起して参らなければならないと考えております。

これからも欠かすことの出来ないより良い住環境を保持して行くためには、次世代の担い手となる青年部会員各位のお力添えが、必要不可欠となっておりますので、今後も更なるご活躍をお祈り申し上げます。

安田 侃先生との集い



女性委員 後藤 朋 恵 (札幌支部)

前日の全道大会、A分科会での余韻も残る次の日9月に入ったとはいえ、太陽の日差しがまだまだ夏を思わせる、晴天の日曜日でした。

安田侃彫刻美術館、アルテピアッツア美唄を会場に女性会員17名が集いに参加しました。

ご存知の方も多いと思いますが、アルテピアッツアは美唄の山間にある、彫刻美術館で地元出身、イタリア在住の安田侃の大理石やブロンズが屋外に展示されています。

安田侃は知らなくても、札幌駅南側正面入り口の大理石像はどなたもご存じだと思います。

最初に旧小学校の体育館の美しい天井梁を見ながらガイドツアーの方に美術館について、説明をしていただきました。そして、屋外の彫刻を見て回り、ワークショップで「心を彫る授業」のスペースへ立ち寄ると、石を彫るワークショップを開催しており、たまたま、帰国していた安田先生ご本人がいらして、作業台と道具の説明をしていただきました。



彫刻のための作業台は、イタリアでミケランジェロが使用していたものと同じ形状の作業台を用意しノミや金づちまで、イタリア製を使用して彫るワークショップだそうです。



その作業台はとても使い勝手がよさそうで500年以上も前から使用している形状とは驚きでした。

そして、その後、屋外の彫刻の説明をしていただきながら見学をするという、とてもラッキーな経験することになりました。

安田先生のお話は、とてもユーモアに富んでいて楽しいお話でし

た。この美術館を広げていくにあたり、地元の方との交流や、熊の道を優先するために一部、広げるのをあきらめて、熊の通り道を残し共存している経緯をお話していただきました。

ひとつ、ひとつの彫刻の移動、配置にもドラマがあることを説明されて、お得感を味わった見学になりました。

また、私が感動したのは先生の手が、本当に力強い手指で職人さんを思わせる手だったのです。今なお、イタリアにアトリエを構え創作活動をしている力強いインスピレーションが手指に表れているように思えました。



最後に先生と一緒に記念撮影をして、とても満足して美術館を後にしました。

そして、もう一つのお楽しみは、「畑のなかのレストランEKARA」でのランチです。

三笠にある田園のなかに自社で取れたお野菜やお米を薪や炭火で調理しているレストランです。



私達、女子にとっては家庭ではできない味付けに一品一品、満足しながらの目も心も満たされるランチでした。

心とお腹にとっても充実感を味わった集いの一日になりました。

計画をしていただいたスタッフの方がた、ありがとうございました。

函館支部

開港5都市景観まちづくり会議

事務局長

渡辺 修司



安政5年(1858年)の日米修好通商条約の締結により開港した横浜、神戸、長崎、新潟、函館の5都市の市民が、景観、歴史、文化、環境などを大切にし、愛着をもって育て、個性豊かで魅力あるまちづくりを行うため、相互の交流を深め、それぞれが抱える課題を報告し、協議を深めあい、まちづくりの推進に資することを目的とした会議です。

平成5年(1993年)に第1回大会が神戸で開催され、毎年、持ち回りで開催しています。

平成30年(2018年)第24回函館大会から建築士会函館支部も実行委員会(同年、まちづくり関連団体33団体で構成する「函館景観まちづくり会議」を設立。)に参画しています。

建築士会は、4分科会のうち「女子的函館湾岸コンクリート物語」を担当し、まちづくり委員長の中澤篤はじめ、小川聡、岩崎美乃、

藤原麻美、橋本雪乃の5人が案内役として活躍してくれました。分科会のコースは、船入潤防波堤(石堤として道内で最古)、函館どっくの乾ドック(100年前のコンクリート造が現役)、東本願寺(日本初の鉄筋コンクリート寺院)の見学、そしてクルージングで函館湾の海上から函館山の裾野に広がる歴史的街並みや坂道、工事中のクルーズ船岸壁などを見学しました。かつて、北洋漁業(母船式サケ・マス漁業)で母船、独航船があふれていた光景を懐かしく思います。

建築士会全国大会の分科会もそうですが、建築士として様々なまちづくり活動に関わることによって自身のスキルアップだけでない

く、その活動を通じて建築士会の存在をアピールできたり、地域貢献にもつながっていきます。

現在は、来年9月に開かれる予定の「2023函館大会」の実行委員会が始まっています。今回は、函館の歴史的な街並みを舞台に1日限定で開催される「函館西部地区バル街」に参加して交流を深めたのが好評だったことから、来年もバル街の日程に合わせて5都市の参加者と食べ歩き、夜長を楽しみながら交流を図りたいと考えています。

函館支部は、まちづくり委員長(末吉勇介)を中心に建築士会の存在をしっかりとアピールしてまいりたいと思います。関心のある方はぜひ一度、参加してみませんか。



全体会議(函館市公民館)



日本最古のコンクリート寺院

留萌支部

留萌支部近況

留萌支部長

舩田 彰



全道の建築士の皆さんお元気ですか?コロナが発生して早くも3年となりました。まだまだ本当に予断を許さない中ではありますが、私たちの生活は少しずつではありますが以前の生活を取り戻しているように感じられすごく嬉しく思っていますが、いつ又という恐怖も合わせて感じています。

この3年間仕事又普段の生活は一変してしまいました。建築士活動も同じです。毎年積み重ねてき

ました建築士の日に開催していましたがチャリティービアパーティの中止、年度総会の簡略、基準法講習会の中止とほとんどの活動すべてです。そのため、留萌支部は協賛していただいていた協賛会年度会費の徴収も休止してきました。そんな中ではありますがもうそろそろ3年間のブランクを取り戻すべく活動を考え活動を再開する時期になってきたように勝手に思っています。まずは手始めに来年度の総会を支部会員そして賛助会員すべてに連絡し懇親会を含めた楽しい集まりができれば良いなと思っています。そして基準法の講習会も再開される予定となって

おります。私たち建築士としての知識の研鑽の場としてなるべく多くの参加を期待しています。そしてメインの建築士の日のチャリティービアパーティを盛大に再開したいと考えています。

現在留萌支部の会員数は47名となりました。

青年建築士の数はほんの少数になってきました。その中での活動は非常に困難を極めますが何とか残った建築士で頑張っていきたいと思っています。最後になります。同様の悩みを持つ支部も多くあると思いますがあきらめずに共に頑張ってください。

令和5年専攻建築士登録申請受付のご案内

？ 専攻建築士になるには・・・(新規認定の要件)

- ・「CPD」を行っており、過去1年間(令和4年1月~12月)に12単位を取得している
- ・建築士資格取得後の専攻領域の実務経歴年数が5年以上ある
- ・「当該領域の責任ある立場での実務実績」(要第三者による証明)が3件以上ある

※構造設計・法令専攻建築士は、一級建築士を要件としております。

◆専攻建築士認定申請について

- 〈受付期間〉令和5年1月4日~2月28日(当日消印有効)
- 〈申請書〉北海道建築士会HPよりダウンロードできます。
- 〈申込〉申請手数料(審査手数料・登録料)の振込控えを申請書に添付し北海道建築士会へお申込みください。

◆専攻建築士更新認定申請について

既に、対象のみなさまへは、更新申請についての案内を送付しております。該当の方で届いていない方がいらっしゃいましたら本部事務局までご連絡ください。(011-251-6076)

道士会の動き

道本部の主な会議報告 (11月)

◆第4回総務・企画委員会

(開催日) 21日(月)

- 1) 令和4年一般会計収支予算の流用(案)
- 2) 令和4年一般会計事業報告(10月末)及び収支決算見込
- 3) 令和4年特別会計事業報告(10月末)及び収支決算見込
- 4) 第44回全道大会(空知大会)の事業報告
- 5) 令和5年一般会計事業計画及び収支予算(案)
- 6) 令和5年特別会計事業計画及び収支予算(案)
- 7) 第45回全道大会(北空知大会)事業計画及び収支予算(案)
- 8) 同梱取扱要領改定(案)
- 9) 令和5年定時総会
- 10) 定款第6条に基づく会員の入会承認(案)

◆第3回事業委員会

(開催日) 26日(土)

- 1) 令和4年事業報告(10月末)及び収支決算見込み
- 2) 令和5年事業計画(案)及び収支予算(案)
- 3) 令和4年「北海道建築士会特別活動費」活動事業報告
- 4) その他

◆第3回青年委員会

(開催日) 26日(土)

- 1) 令和4年事業報告
- 2) 令和5年事業計画(案)
- 3) 令和5年事業予算(案)
- 4) その他

本部の主な行事予定 (12月)

- 1日(木) 第5回四役会
 3日(土) 第3回情報委員会(web併用)
 9日(金) 第5回理事会
 10日(土) 第2回被災地応急支援委員会

関係機関等会議参加予定 (12月)

12日(月) 東北ブロック会(秋田) 上記 高野会長

講習会・セミナーのご案内 (12月)

BIMセミナー

13日(火) 札幌市

監理技術者講習

14日(水) 札幌市

編集後記

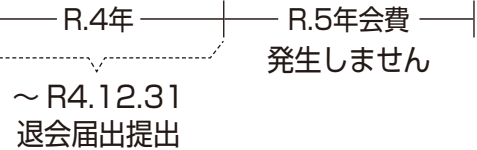
気が付けばもう今年も師走12月になりました。2020年1月に日本で新型コロナウイルス感染者が確認され3年が経ち、ウィズコロナ時代が始まりました。現時点でも第8波が押し寄せている現状ですが、今年は北海道建築士会として3年ぶりの第44回全道大会「空知大会」が無事に開催できたこと嬉しく思います。今号では空知大会の特集を掲載しており、参加出来なかった方にも、3年ぶりの全道大会を感じ取っていただければ幸いです。来年の第45回全道大会「北空知大会」も盛大に開催できること、心より祈願しております。

会誌「北海道建築士」ご購入ありがとうございました。よいお年をお迎えください。

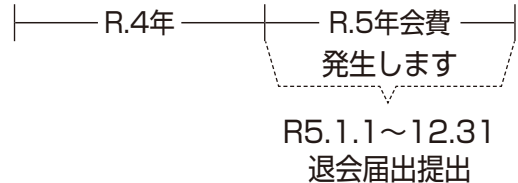
情報委員会 村山 賢司(中標津支部)

令和5年会費関係スケジュール

【令和4年12月31日迄に退会届提出の場合】



【令和5年1月1日以降に退会届提出の場合】



令和5年会費請求を11月中旬に郵送いたしました。本会の会費は、年会費(1月~12月)の一括納付(会費規則第2条)令和5年3月31日迄となっております。

年の途中で退会された場合でも1年分の会費が発生いたします。都合によりやむを得ず退会される場合、12月31日迄に退会届を所属支部へご提出をお願いいたします。

※会費の滞納が続きますと会誌の発行、会員としての特典が停止されます。

CPD認定プログラム(11月認定)

◆実務に役立つ建築法規解説

「第54回建築基準法講習会」

《日程及び会場》1月12日(木) 10:30~16:00

北海道第二水産ビル(札幌市)他19会場

《単位数》

4単位

“会員専用ページ”でオンデマンド配信中!



■視聴方法: 北海道建築士会HPの上記「会員専用ページ」をクリックしパスワードを入力

■12月パスワード: Tok026

情報委員会委員長/森 勝利

副委員長/前田 繁・立花智亜喜

委員/今村 敏彦・境谷 香奈・角張 隆昌

村山 賢司・徳留 裕敏

北海道建築士 No.304号

印刷 令和4年11月/発行 令和4年12月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会

〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地

大五ビル

電話 (011) 251-6076番

URL <https://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎

〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目

電話 (011) 811-7151番